国立病院機構沖縄病院

連携室ニュース

基　本　理　念

患者さまの立場を尊重し
高度で良質の医療を提供します。

２０１４．１０．２７　No.８１号

独立行政法人
国立病院機構沖縄病院
地域医療連携室
沖縄県宜野湾市我如古３－２０－１４
電 話　０９８－８９８－２１２１
Fax　０９８－８９８－６４３３

新西病棟起工式を行いました！

国立病院機構沖縄病院　企画課長　池田　克己

平成２６年７月２２日、当院において８月から新西病棟着工を前に起工式が行われました。本来なら、この時期新病棟はもう既に建築が終わり使用されているはずでした。ところが、折からの建築関係人手不足等による入札不調が続き落札するまでに４回要した事で建て替えが非常に遅れました。西病棟は現在、筋ジストロフィー病棟として運営していますが、近年老朽化が進み 10 年以上前から患者さんはもとよりその家族、職員が病棟建て替えを心待ちにしております。それゆえ、工事を担当する者として一刻も早い着工を願っていたので、今回起工式を迎えることができ喜びも一塩でした。新しい病棟は、このまま順調に進みますと平成２７年９月末竣工、１０月使用開始となります。また、従来の８０床よりも２０床増え１００床となることもあり広く神経難病を取り扱う病棟として位置づけられます。アメニティーが充実し、より患者さんの目線にたった診療が展開できると思うと完成が楽しみです。

リハビリテーションのチャレンジ
－院内標傍リハビリテーション科部長拝命のご挨拶と神経内科のご紹介－

リハビリテーション科部長　諏訪園　秀吾

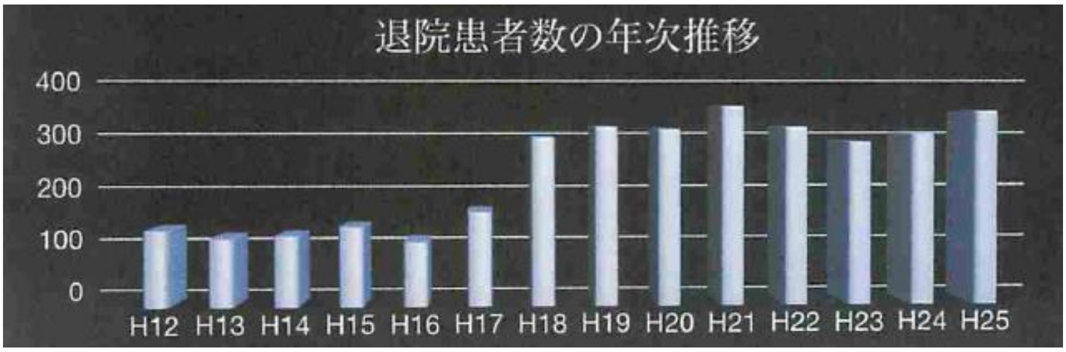
さる 4 月に、院内標榜でリハビリテーション科部長を拝命いたしました。そのような器かといわれると忸怩たるものがございますが、適任者がご着任なさるまでの繋ぎとして出来る限りのことをしていきたいと思います。今後ともますます宜しくお願い申し上げます。これを機に、当院神経内科の現状をご紹介申し上げたいと思います。

下図の退院患者統計に当科の守備範囲が良く示されていると思います。神経変性疾患が主であり、単独で最も数が多い疾患は筋萎縮性側索硬化症 ALS です。神経変性疾患においてもリハビリテーションの効果は絶大なるものがあり、脳血管障害におけるその効用に優るとも劣りません。例えば、パーキンソン病の患者さんで短期間の入院リハビリを行うだけでも内服薬の変更なしに歩行が改善して退院される患者さんも多いです(外来で十分なリハビリが行いにくい種々の情勢を反映しているわけですが)。また、ALS の患者さんで意識はクリアでも高度な麻痺のために十分なコミュニケーションができないことがあり、このような方のために意思伝達装置を導入するのも、円滑な家族関係を維持して在宅療養を長続きさせるために極めて重要な事です。このようなニーズに応えていくのもリハビリ部門の重要な仕事のひとつであり、こういった背景から私がリハビリ部門の発展による当院診療のさらなる充実のためにご指名いただいたものと思います。今年度の国立病院学会で私達は、ALS の患者さんにおける視線追跡を入力とした新しいデバイス応用について発表する予定にしています。既存の装置の組み合わせのみで満足することなく、必要ならば常に新しいものにも柔軟にチャレンジしていく姿勢を大事にしていきたいと思っています。

根治的治療法がないがために、神経内科医は「いかにしてよりよい生活を送るか」を考え続けてきています。「診断を告げた瞬間に広い意味での緩和医療が開始されるべき」と考えるならば、治らないと告げてから始まる神経難病診療は「よりよい生活のためのあれこれ」に他なりません。そこには遥か昔から様々なノウハウが蓄積され改善され続けており、何もできることがない状況は稀です。前記のリハビリのチャレンジもその一端といえます。

9 月に北部保健所で開催された難病医療従事者研修会で講演をさせていただく機会がございました。人工呼吸器を装着してグァムへ旅行なさった症例をご紹介し「自分で自分の可能性を狭める必要はない」ことをお話しました(当たり前のことで、患者さんに限ったことではないわけですが)。最初から負け戦でも、知識があれば、より上手に戦うことは十分に可能であり、リハビリテーションを武器の 1 つとする神経難病診療はこれを提供していくものです。脳血管障害以外の神経疾患診療は一般には馴染みが薄いものと思いますが、リハビリ施設やエコー・MRI・シンチグラフイ一などの検査施設といった前提条件が整えば、実はビジネスモデルとしても十分に成り立ちうると考えています。その詳細は平成 26 年 12 月 14 日に沖縄県医師会館で開催されます第 118 回沖縄県医学会で発表する予定です。

筋ジスでもなければ ALS でもない筋萎縮症に「沖縄型神経原性筋萎縮症」といわれる病気があります。近年、関連する遺伝子異常が決定され、臨床情報のみでは鑑別が難しいこの病気も次々に診断がなされていくようになっています。さほど遠くない将来に臨床治験が開始される可能性があります。患者会も結成されようとしており、地域との連携が益々重要となってきています。今後共何卒宜しくお願い申し上げます。



退院患者内訳 H22～H25（1243 例）

神経変性疾患	ALS・パーキンソンなど	453	認知症性疾患	69
末梢神経疾患	CIDP・ギランバレーなど	203	神経感染症・脳症	41
筋疾患	筋ジス・MG など	151	脳血管障害	37
免疫関連性中枢神経疾患	HAM・MS など	131	転換	17
内科疾患に伴う神経障害	ビタミン欠乏・膠原病など	60	腫瘍	8

○ 緩和ケア病棟のご案内と緩和ケア学習会のご紹介

緩和ケア病棟師長 比嘉千佳子　　緩和ケア認定看護師 奥間かおり

緩和ケア病棟は 4 階北側に長くつづく病棟です。季節感を大切にしており秋を感じさせるこの時期、ハロウィンの飾りが患者さんやご家族をお迎えします。

ところで、緩和ケアについて皆さんご存知ですか？「緩和ケアとは、重い病を抱える患者やその家族一人一人の身体や心など様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるように支えるケア」です。（緩和医療学会より）

緩和ケア病棟では医師・看護師・薬剤師・心理療法士・栄養士・医療ソーシャルワーカーが専門性を活かし、がんによる身体的な症状だけではなく、精神的・社会的・スピリチュアルな面でのつらさの緩和をめざし、患者さんや家族へより良い医療の提供を行い「その人らしく」ということを大切に過ごせるよう支援していく病棟です。

病室は 20 床あります。そのうち 16 床が個室（うち 4 床が有料個室 1 日 3, 240 円）で室内に洗面台やトイレが設備されています。談話室では茶話会で「たこ焼きパーティ」や「ヒラヤチー」を焼いたりして、ご家族の団らんが行われ大切な時間を過ごしていただけます。談話室の隣の部屋は、家族もゆっくり休むことができるよう家族控室もあり、いつでもご利用が可能です。また、緩和ケア病棟のホールでは、民謡ショーなどボランティアの方がいらっしゃって、患者さんとカチャーシーをしたり、楽しく過ごしています。

当院は、肺がんの治療を中心としたがん専門病棟や、神経筋病棟、結核治療を専門とする呼吸器内科病棟があります。がんや、神経筋難病、結核などの症状には、身体的な痛み・呼吸困難・便秘・悪心・嘔吐・だるさ・せん妄･･･など多くの苦痛が伴います。病気の進行に対する事などの精神的な不安や、治療費などの金銭的な不安など様々な側面で「つらさ」が生じます。患者さんだけではなく、支える家族も同じように「つらさ」を抱えています。私たち医療スタッフは「つらさ」を和らげ、患者さんやご家族に寄り添う医療の提供ができるよう、知識や技術の習得のため毎月第 3 金曜日の夕方に学習会を実施しています。講師には専門分野の医師や、薬剤師、心理療法士、栄養士、看護師が講義を行い症状マネジメントに対する学習や、コミュニケーションについて。家族ケア、グリーフケアなどの学習を行いより豊かな人生を送ることができるように支えるケアを提供していきます。
「緩和ケア病棟ってどんなところ？」など、患者さんとその家族の方が困っていることなど、電話相談なども受けております。なにかありましたら、沖縄病院までご連絡ください。
これからも、患者さんとその家族にとって良い時間が過ごせるよう、私たち職員一同頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願いします。

談話室
茶話会・家族の団らん・休息などに使用

一般個室
窓の外から時々山羊が見えます

有料個室
1 日¥3,240

ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル ♥ ハートフル・コンサート

庶務班長　　海良田　猛

７月６日（日）１４時２０分より、沖縄セルラーさんのご厚意により２年ぶり３回目のニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル・ハートフル・コンサートを開催しました。楽団のメンバーは、１２時くらいに到着しほとんどが外国人で（日本人も数名いましたが）、それだけで小心者の自分はあたふたしてしまいました。本番は４０分ですが、リハーサルや約２時間かけて準備されます。何度も演奏した曲でしょうが、本番より長い時間を使っての練習、これがプロかと実感させられます。

交響的物語“ピーターと狼”では、少年や小鳥、猫、狼等を楽器や曲でどのように表現しているのを解説付きで演奏があり、初めて聞く曲でも画面を想像しながら楽しむことができました。また、“シンコペーティッドクロック”、行進曲“威風堂々”と曲名だけでは教養もなく「？」という感じでしたが、曲を聴いてみると「知ってるこの曲！」。やっぱり知っている曲が一番ですね。

日曜日なのでどのくらい来てくれるか心配していましたが、職員ボランティアの協力もあり、ベッド・車椅子の患者様にも見に来て頂き、総数１２０名と盛況でした。特に、車椅子の患者様の肩に手を回している家族（別添画像）が印象深く、ハートフル・コンサートにふさわしい場面だなと思いシャッターを押しました。帰り際に、コンサートの担当の方に２年後にもよろしくお願いしますとお願いしておきましたので、次回もお楽しみに。

沖縄病院『第 35 回 西病棟夏祭り』が開催されました

療育指導室長　　北島　竜一

去る 7 月 25 日、「西病棟夏祭り」が開催されました。今年で 35 回目を迎えるこの行事、筋ジストロフィーを中心とする筋疾患の方やＡＬＳなど神経疾患の方が入院している病棟が中心となり実施しています。

当日は真夏日で突き刺さるような日差しでしたが、夕方の開始時には陽も徐々に陰り始め、打水の効果か、心地よい風が吹く中、スタートしました。

今年のアトラクションは、あゆみ保育園児や病院太鼓クラブによる「エイサー演舞」、地域の創作太鼓集団琉風による「創作太鼓演舞」、バンド演奏、そして今年も締めは園田青年会によるエイサーでした。

可愛いらしい園児たちの一生懸命な踊りやバンドの軽快な演奏と歌声、祭りを盛り上げる太鼓の音や勇壮な踊りに会場は盛り上がりました。

夜店では恒例の入院者による「一銭まち屋」や「飲み物屋」、病棟職員の店「アメリカンドック」「いなりとチキン」や隣接する特別支援学校の保護者、先生方よる「かき氷」、ボランティア大学生による「水餃子、フライドポテト」などなど。おいしそうな匂いと活気あふれる呼び声など祭りの盛り上がりに花を添えてくれました。また、今年も美ら海水族館から移動水槽車が来てくれました。

西病棟の夏祭りは地域で催されるような派手さはないかもしれません。しかし、みんなで夏の楽しいひと時を過ごす温かさを感じました。

来年は、いよいよ新病棟完成予定です。夏祭りも心機一転、新しい形となることと思います。皆さんも一度、夏祭りに遊びに来てください。一緒に盛り上がりましょう。